

自治体学会議員研究ネットワーク研修会

「みんなで考える議員の資質向上策」

日時：2016年1月24日（日）13時30分～16時30分（受付13時～）

会場：中央大学駿河台記念館 5F・560号室

第1部 基調講演 江藤俊昭 山梨学院大学教授

第2部 ワールドカフェ 参加者全員での検討

第3部 まとめ 廣瀬克哉 法政大学教授

「あれ？と思うような議員、まわりにいませんか？議員の資質向上策について、あれ？議員も変えていく策をみんなで考えます。」これが、今回の研修会のチラシのコピー文である。

選挙は選良を選ぶためにあるといわれているが、なかなかその機能が発揮されていないせいか、実際には、議員の資質を疑うような様々なコトが世間を賑わせている。そこで、今回の研修会では、思い切ってもう選ばれてしまった議員の資質をいかに高めていけばよいかについて、ワールドカフェの形式で広く意見を集めることとした。

テーマが斬新だったせいか、あるいは、江藤先生と廣瀬先生のお二人が一同に会するせいかはわからないが、北は北海道の栗山町議会から、南は沖縄県那覇市議会まで、さらに、議員のみならず議会事務局職員や、議会に関心を持つ市民の方々まで、45名の幅広い参加（うち自治体学会会員は13名）があった。

ここで、ワールドカフェの流儀について少し説明をしておこう。①与えられたテーマについて各テーブルで数人が議論。②テーブルホスト以外は他のテーブルへ移動し、そのホストから前の議論のサマリーを聞く。③さらに議論を深め、これを何回か繰り返す。④各テーブルホストがまとめの報告を全員にする。というものである。

ワールドカフェ形式での議論に入る前に、まず山梨学院大学、江藤先生から議論の共通認識を得るために、講演をいただいた。

江藤先生からは、「議員の立候補少ないことも射程にいれて、資質の問題も考えたほうがよい。議会を作動させる議員の能力とはなんだろうか。口利き、批判的に捉えられるが、意味転換が必要ではないか。地元の多用な利害を政治の場所にだしていくことは必要。」

「議員の資質、政治家の資質とは何か」「政治家の資質については、コミュニケーション能力が重要と考える。議会の構成員としてのコミュニケーション能力。議員間討議、議会報告会を通して住民との関係を深めるなどの能力である。」などの問題提起がなされた。

その後、A～Fまでの6グループに分かれて1回目の議論を行った。

「議員の資質に係わる問題」について、自由に全体で意見を出していただいた。

就活議員が増えた、質問をしない、議員を名誉職と考えている、市長におねだりしかしない、権力をかざす、話し出すと止まらない 人の話をきかない 全部自分の手柄にしてしまう、極端に我田引水 などの意見がでてきた。

その後、参加者には、班ごとに「議員のあるべき姿について」議論をしていただいたその後、メンバーチェンジを行い「議員の資質改善のために何をすべきか」を議論していただいた。この2つのテーマは不可分な部分があるため、あるべき姿と、何をすべきかの議論は、はっきりとわかれて議論がされなかった傾向が見られた。終了後、それぞれの班の話し合い内容を発表していただいた。各班からは、会派を越えて議論できる議員、議論の場をつくるべき、市民に対して説明能力をつけるため、議会報告会などの公開の場で鍛えていく、選挙を忘れてどれだけ活動できるかが大事、最初の1～2年は特に全体、後半は地域のことに特化すべき、議会が議員を評価、議員が議員を自己評価すべき、などの意見が出された。

その後、廣瀬先生から、それまでの意見を受けての講評がなされた。廣瀬先生からは、人の見えないところで交渉して結果をだすことをよしとするなら、今回の議論は必要ない、機関としての議会として、一定のイメージ共有がないといい資質向上はできない、現状がなぜこうなっているかの政策知識は必要だが、議場での議論が専門的すぎてよくわからないということになっても問題、委員会も傍聴者に途中で意見を求めることで、傍聴者も当事者性が生まれてくる、市民の資質以下の議会もあるので、それは別だが、市民の資質向上も議会の役割と認識すべき、などの講評がなされた。

概ね熱心な議論がなされたが、大きな声の方に意見が引きずられた傾向も見られた点が反省転としてはあげられよう。

なお、当日、自治体学会入会のご案内をおこなったところ、3名の方が新たにその場でご入会いただいたことも付け加えておく。ご参加いただいた皆様と講師の先生方には改めて感謝申し上げます。